



大垣昌夫 教授

専門:行動経済学

(インタビュアー:山本・小原)

『人の感情や心情を通して経済を考える行動経済学!』

Q. 大垣先生の専門とされている研究内容はなんですか？

行動経済学はまだ新しい学問の分野なので規範経済学（資源配分がどのようになされているかを研究する実証経済学に対して、資源配分がどうあるべきかを研究する経済学）としての形を考えています。伝統的な経済学は経済システムの外で決まっている選好（好みであって効用関数で表現される）を仮定するので、規範経済学では厚生主義（効用を重視する）を採用しています。しかし行動経済学では経済システムの中での内生的な選好の変化に着目します。つまり伝統的経済学は外生的に選好が決まっているときの効用の増減を考えるのに対し行動経済学では選好自体の変化を考えることになります。そのため非常に経済モデルを作るのが困難である一方、人間の選好というのは内生的な変化によって左右されるのでどのような選好が社会的に望ましいかを考えることができます。入ゼミ課題であるサンデル著書『これからの正義の話をしよう』にあるような美德や倫理感というのも人の選好に関わってくる重要なものです。つまり選好の種類や質を考える事が重要になってくるわけです。例えば最近なら「アベノミクス」が一つ目標に掲げているのはGDPの増加ですが、これはいわゆる物質的な効用の追求ですよね。もちろん物質的な効用を追求することは重要ですが、精神的な効用、つまり本当に人々が幸せを感じることができるのは何なのかを真剣に考えることで政策の形をより良いものにできるのではないのでしょうか。それを考え追求できるのが行動経済学です。

『サーバントリーダーであること！！』

Q. 大垣先生の教育理念を教えてください

授業・講義におけるリーダーは教授であり、リーダーはサーバントリーダーでなければならないと考えています。ゼミの目的は学ぶことです。リーダーとして学生に奉仕する心をもって授業し、この目的を実現することこそが私の教育理念です。

『プロのギャンブラーになりたかった学生時代！！』

Q. 大垣先生の学生時代のお話を聞かせてください

実は学生時代はプロのギャンブラーになりたかったのですよ(笑)。授業にもほとんど行かなかったので2年生の時に留年が決定してしまいました。そんな時に家内と出合って、ギャンブラーになる夢を捨てて普通の生活の幸せを追求しようと思ったのが勉強し始めたきっかけです。そこで真剣に勉強してみたら経済学をものすごく面白いと感じました。特に面白いと感じたのは国際金融の実証研究の分野です。実証研究というのはもし研究が成功していい結果がでたときには経済学者はものすごいお金や地位が得られるのですよ、だからある意味ギャンブルのようなものなのだと当時は考えていましたね(笑)。今でも経済理論を反証、サポートできる実証研究というのは私の好きな研究の一つです。

『積極的にグループに貢献しようとする意識』

Q 大垣ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

3年生での活動の半分は4人1組のグループでの研究です。そのためグループに貢献しようとする意識があることが第一ですね。フリーライドして他人に全部任せっきりにする人ばかりだとゼミが成り立たなくなってしまうから。また研究内容は「世界観が経済行動に与える影響」です。世界観というのは人間の価値観や倫理観のことです。例えば天国の存在を信じていて現世で善い行いをすれば天国に行けるという世界観を強く持っている人は他人よりも寄付やボランティアをすると考えられますよね。このように世界観が経済行動にどのように影響を与えているかを学んでいくため、人の世界観に興味がある人はぜひ来て欲しいです。

『本当の合理的とはなにか？』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

合理的って言葉に注意して欲しいですね。経済学だと合理的という言葉の意味を自分の効用を最大化することというふうに考えてしまうんですね。その考えのまま合理的な生き方が頭のいい生き方だと思ってしまうと、先ほど言ったように研究を他人任せにしようとしてしまうんですよ。でも本当の合理的というのは目的と手段の2つが理にかなっているということです。なので「研究をする」という行動に対して「出来る限り自分は楽をして終わらせる」という目的で他人任せにするというのは明らかに理にかなってないので、どれだけ手段を合理化しても本当の意味での合理的とは言えません。2年生にも本当の合理的を勘違いしないで欲しいですね。私は学生の時ひどく勘違いしていましたから(笑)。